

■ 協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢育て (笠縫小学校)

1 【活動の趣旨】

学校と地域・家庭が連携して子どもたちの学びをより豊かなものにするとともに、地域の自然や文化や産業に触れることで、その良さを知り伝えられる子どもの育成とその仕組みづくりを目指し、学校と地域が二人三脚で地域協働合校事業を進めている。



【 青花紙づくり 】

2 【特徴的な活動内容】

○栽培活動

3年生の総合的な学習の時間で、地域の伝統産業である青花紙用のアオバナを栽培する最後のお一人である「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世話の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染める体験もでき、地域の産業についての理解を深めることができた。また、中庭の「ふれあい花壇」では、環境美化委員会の児童がボランティアの協力を得ながら、季節の花の栽培活動を行った。

○地域の人から学ぶ

特別支援学級の子どもたちは、学区の民生委員児童委員さんと制作活動を通して交流を行った。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要なものを準備していただいたりと、積極的に関わっていただいた。2年生の生活科では、地域の商店等の協力を得て、それぞれのお店の工夫や思いを聞かせていただき、地域のお店に関心と親しみをもつことができた。6年生の総合的な学習の時間では、学区の「ふるさと絵」から、伝統の「サンヤレ踊り」や「講踊り」などに関心を持ち、フィールドワークで取材を行ったり、ゲストティーチャーを迎えて話を伺ったりしたうえで、自分たちでも調べ活動を行って地域について理解を深めることができた。

3 【実施に当たっての工夫】

年度や学期初めに、学習支援をお願いしたい内容について、学年と地域コーディネーターとで打ち合わせを行い、学習展開や人材確保に見通しを持った。

4 【事業の成果】

- ・授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験をしたりでき、子どもたちの学びが深まった。
- ・継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、読書や下校パトロール、授業支援などの活動をスムーズに行うことができた。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・ボランティアとの授業前の打ち合わせによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間を取ることは難しかった。地域コーディネーターやボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように、記録の方法を工夫していくことが必要である。
- ・年度末に近づくにつれ、講師謝礼が不足がちになった。年間計画を見直す過程で、必要となるボランティアについて整理し、見通しを持った予算計画を立てる必要がある。
- ・継続してボランティアに協力してくださる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。